

昭和51年1月

PHP友の会趣意書

われわれの周囲には、見聞きしてうれしくなるような出来事よりも、見聞きしてイヤな思いをすることのほうが、ずいぶん多くなってきたようです。これは大変残念なことだと思います。たとえば、どこへ行っても自己本位のふるまいが目につき、真心とか思いやりの姿は失われつつあるようですし、政治とか社会活動のどの分野にも、さまざまな不祥事がたえないことは、ご承知のとおりです。

このままではいけない、このままではお互いに不幸だし、日本の将来はどうなるかわからないと、心ある人たちはひとしく憂えています。けれども、事態は一向によくならないのが現状だといえるでしょう。

そこで大事なことは、われわれが社会の出来事に対して、単に不平不満をつのらせるばかりでなく、いったいどうすればよいかということを前向きに考え、提言し、衆知を集めないことではないかと思います。つまりお互い一人ひとりがこの社会を支えているメンバーなのだという自覚をもって、ともどもに知恵を出し合い、協力し、助け合って、よりよき共同生活を生み出していかなければならないと思うのです。

そういういた願いのもとに、PHP研究所では現在“PHP友の会”的結成を広く呼びかけております。これは政党をこえ、宗派をこえ、職業をこえ、老若男女の別をこえて、素直な心で人生や社会のことを考え合おうとするものです。たとえば、日々の暮らしの喜びや悩み、あるいはお互いの仕事や社会生活の問題点について話し合い、考え合う相互啓発の場として、この“PHP友の会”をつくってみてはどうかということです。

この“PHP友の会”には、誰でも参加できます。自他とも幸せを願い、互いに手をつないでやっていこうという仲間ができれば、家庭でも学校でも職場でも、団地や地域社会でも、進んで結成していただきたいと思うのです。

そして、“PHP友の会”においては、お互いに謙虚な態度、寛容の心をもって話し合い、学び合うことから始めたいと思います。言いかえれば、互いに許し合い、いたわり合うようにつとめるということです。あやまち多き世であり、お互い人間ですから、時として相手の非を責め合うという姿も出てくるとは思いますが、しかしいたずらに責め合っているばかりでは、どんなことでもうまくいかなくなるでしょう。善人でも悪人だということにされかねません。ですから、責め合うよりも許し合うことが大事なのです。

そういういた謙虚さ、寛容さ、あるいは許し合いの心というものはどこから生まれてくるかといいますと、それはお互いが素直な心を養い、これを高めていくところから生まれてくるといえるのではないかでしょう。また今日の社会の荒廃の姿も、そのもとをただせば、お互いに素直な心を失い、それぞれの欲望とか利害得失にとらわれているところに、その根本の原因があるのではないかと思います。

そういう意味からいって、“PHP友の会”の活動とは、お互い素直な心を養い合い、またその素直な心を世に広めていくものだともいえましょう。素直な心が高まれば、物事の実相がよくわかり、お互いに何をなすべきかがおのずと明らかになってきます。またその適切な判断を、お互いの人生なり共同生活の上に正しく生かし合い、実践する力もわいてくると思うのです。そういう素直な心を、自分ひとりだけでなく、仲間が相寄って高め合おう、そして自他とも幸せをもたらし、明るく住みよい社会をつくろうというのが、すなわち“PHP友の会”なのです。

こうした趣旨に基づく“PHP友の会”が全国各地、各界各層につくられ、これに一人でも多くの方がたが参加されるように願っています。そうすれば、真剣な相互啓発の姿のなかから、必ずや一人ひとりが向上し、身近な共同生活がよくなり、ひいては日本と日本人の、そして世界のより高き繁栄、平和、幸福の姿がもたらされてくるでしょう。

真に社会を憂え、お互いの人生なり共同生活のあり方をまじめに考え合おうと願う方がたの、積極的なご参加を期待する次第です。